


博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	福祉支援工学
学籍番号	20S3020	院生氏名	鎌倉 宗史
通学キャンパス	赤坂キャンパス		
論文題目	起立しやすい便器・便座周辺設定の検討 — 脊柱後弯変形を呈した高齢者を対象として —		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本研究は脊柱後弯変形を呈した高齢者(円背高齢者)が起立しやすい便器・便座周辺設定の条件を明らかにすることを目的に、工夫を施した設定(工夫設定)を試作し、その有用性と問題点を検討した。研究1では脊柱後弯を模した若年健常者(模擬円背者)を対象に補高3cm、補高5cm、前傾5°、前傾15°、拡張の5種類の工夫設定と工夫を施さない設定(通常設定)からの起立動作を計測し、研究2では円背高齢者を対象に研究1の結果から選定した補高3cm、前傾5°と通常設定からの起立動作を計測した。その結果、補高3cmは離殿前の筋活動量が減少するが、対象者の一部は踵が非接地となることは判明した。一方、前傾5°は起立動作時間が短く、官能調査で補高3cmより高評価だった。結果から円背高齢者にとっては便座の補高は足底への荷重が阻害されるため起立しにくくなり、便座の前傾は座面が高くなるが、足底への荷重が増加し起立しやすいことが明らかになった。今後の課題として、非円背者との比較研究が必要なが示された。本研究の新規性は、円背高齢者が主観的、客観的に起立しやすい便座設定の原理が明らかとなった点にあり、本分野の発展に貢献する研究として高く評価される。</p> <p>また、研究方法、論証を含む論文の形式、倫理的問題については、規定や研究倫理指針を順守した研究であった。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>12月9日に審査会を開催し、副論文の審査および主論文の報告および質疑応答を行った。副論文については、副論文としての要件を満たしていると判断された。主論文の報告に関して、論文の方法論、新規性、文章の構成など、審査員から質問や指摘事項が出された。12/22に修正論文および回答書が提出され、これに対する審査委員からの再修正事項に対しても2023年1月6日に修正版が提出された。</p> <p>3. 口頭試問</p> <p>審査委員からの質問・指摘に対して、適切に回答された。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	前田 佑輔	
	副 査	藤田 郁代	
	副 査	只浦 寛子	